



あさの しゅういち 議員
浅野 修一 議員

渇水対策

天然のダム創造が必要では 持続可能な森林環境を整備

においては直接、飲料水を運搬し水を確保した。現在、上川口の方に浄水場の施設を建設中であり、今後の渇水への対策も取れるかと思う。

問 山林再生の必要性を強く感じ、渇水対策に広葉樹を植え「天然のダム」創造が必要ではないか。

答 今西海洋森林課長
森林の健全な管理と、適切な施策がなければ、持続可能な水資源の確保は難しくなる。

そのため、中長期的な森林施策と水源涵養の関係性を深く理解し、今後の環境保全と社会との持続可能性を支える鍵と捉えている。

町としても森林における保育間伐、搬出間伐、皆伐、再造林など、各種事業に取り組むことが結果的に天然ダムの効果に結び付くと考えており、今後とも持続可能な森林環境の整備に努めていく。

水道事業

国、県への要望活動は政治力も使いながら要望

問 本管布設の現状は。

答 河村建設課長
布設状況は導水管、送水管、配水本管の合計が5万3256mで、給水区域内の全域に配置。

問 水道事業の耐震対策の課題は。

答 河村建設課長
黒潮町水道施設耐震化・更新計画に見直しをかける実施している。

基幹管路であれば、老朽管の更新に合わせ耐震管とすることで補助対象となり、その辺も考慮し更新するが、給水人口に対し管路延長も長く、施設の更新に多額の費用と期間を要し、対策として、施設の縮小や統合も含め

て考えている。

問 町長は今後、国、県への要望活動をどう考え、どの様に行なうのか。

答 大西町長
給水人口に対する管路延長は高知県第2位で、配水効率が悪く、赤字体

質なのが正直な話。一町からの要望ではなく、できるだけ各種団体を通じて政治力も使いながら、水道事業が地方財政の財政負担にならないよう、国、県への要望活動を続けていきたいと思う。



上川口上水道取水施設

問 大方地域では連日、節水への協力量請が町から発せられたが、対策は。

答 河村建設課長

1月27日から大方地域において節水への協力量請を放送し、仲分川地区